

遺伝子解析技術による水生生物の同定

(DNA 試験)

近年10年間の分子生物学の進歩は、コッホが結核菌を発見した1882年からの100年間の進歩より早いと言われています。2003年にはヒトの全遺伝子が概ね解明され、生物の遺伝子データベースも徐々にその種類を増やしつあり、この自然環境分野でも活用可能な状況となってきました。

そこで、当社は従来の顕微鏡観察による形態分類だけに留まらず、特に形態分類では特徴が希薄なため、種の同定までが難しい水生生物を対象に遺伝子解析技術を使った同定サービスを提供することにより問題となる対象生物の種を特定し解決の糸口となるきっかけとなればと思ひスタート致しました。



ctgctaatac cggatgtgcc gagaggtgaa agctttagtg cctgtagatg agcttgcgtc



NO.	対象水生生物など	備考
1	カビ臭産生類 (2-MIB 産生株の同定)	16 s 2MIB 産生部位
2	カビ臭産生類 (ジノスミン産生株の同定)	16 s ジノスミン産生部位
3	藍藻類の同定 (形態と DNA 解析)	16 s rbcI
4	特定魚介類	12 s その他特定遺伝子
5	環境 DNA (次世代シーケンサーによる)	
6	その他微生物 (動植物プラクトン、ベントス等)	

- * 環境水中よりカビ臭藻類を特定する場合、単離培養が必要となります。
- * 環境水のサンプル送付は、1L (保冷) でお送り下さい。
- * 分析単価、分析方法、写真撮影等につきましては、弊社営業までお問合せ下さい。
注) : 写真は JPG ファイル指定とさせていただきます。